

2014年度 拓殖大学台湾学友大会における 福田勝幸理事長 挨拶文

台湾在住の拓殖大学学友のみなさんこんにちは。このたびは台湾学友大会ならびに、唐松章台湾連合会長退任、新連合会長就任レセプションにお招きいただきありがとうございます。

昨年5月の台湾訪問に引き続き、約一年ぶりにみなさんと親しくお会いすることができ、大変うれしい気持ちでおります。

台湾での拓殖大学卒業生の交流活動は、専門部第19期卒業の黄櫻楚先輩を支部長として、1978年1月、豊田悌助総長が台湾訪問の際に、「台湾支部」が正式に発足しました。

爾来、日台間の交流は一層活発となり、本学が創立80周年を迎えた1980年には、東呉大学と協定を結び、翌年から学生の長期台湾留学が実現することになりました。この制度は現在も続き、多くの拓大生が台湾へ留学するとともに、近年では東呉大学の学生が拓殖大学八王子キャンパスでも勉学に勤しんでおります。

1997年3月22日黄櫻楚台湾支部長は、台北市で20人の卒業生を集め「台湾北区支部総会」を開催、翌23日には高雄市で「台湾南区支部総会」を開き25人の卒業生が集結。それぞれの地区に新たな支部長を選出しました。後日「台湾中区支部」を設置し、3支部から成る「台湾連合会」を発足させ、連合会長として台湾の卒業生を束ねる大役を担って来られました。

2005年3月、黄櫻楚先輩が逝去されましたが同年4月19日に台湾北区支部、20日に台湾南区支部の総会が開かれ、新たに唐松章先輩が台湾連合会長に選出されました。

以来、およそ10年の長きにわたり、唐松章先輩には連合会長として、台湾での卒業生の親睦を中心とした学友活動は勿論のこと、学校法人拓殖大学の評議員としてもご尽力をいただきました。ここに拓殖大学を代表して、衷心より御礼を申し上げます。

唐松章台湾連合会長は、卒業生の親睦交流はもとより、台湾を訪問する本学の学生、教職員に対し、多方面でご協力くださいました。また、本学の創立百周年記念事業、現在展開しております拓殖大学ルネサンス事業に対しましても、多大なるご寄付をいただいております。ここに改めてご協力、ご支援に心より感謝申し上げます。

お陰をもちまして、文京キャンパス再開事業も最終ステージを迎え、順調に進行しております。10階建ての新たな図書館・教室棟を建築中で、明年1月に竣工し、2015年4月には供用を開始します。これにより、現在八王子キャンパスにあります、商学部、政経学部の1年生、2年生の教養課程を文京キャンパスに移転することになり商学部、政経学部は、1年生から4年生までの一貫教育が東京都心の茗荷谷で実現されることとなります。みなさまには、今後も多くの志ある青年が、台湾から拓殖大学へ進学されますようご協力をお願い申し上げます。

本日、唐松章会長が名誉会長にご勇退され、新たに楊焜徳台湾連合会長・台湾南区支部長と劉信誠台湾北区支部長の体制が発足いたしました。若いお二人のリーダーシップにより、台湾在住の卒業生の親睦、連携と、母校発展のために絶大なるご協力をお願いいたします。

本年3月、拓殖大学の附属高校であります拓殖大学第一高等学校では、修学旅行先の一つとして台湾を選定いたしました。河田昌一郎校長引率のもと、63名の高校生が台湾を訪問し、その歴史や文化を学び、本学の卒業生や東呉大学の学生との交流を通じて、台湾の人々の温かさを感じて帰国いたしました。今後いっそうの両国理解と友好発展につながるものと確信しております。

本学と台湾の関係につきましては、今更申し上げるまでもございませんが、このたび財団法人台南市奇美文化基金会の許文龍会長から、拓殖大学第2代学監を務めた新渡戸稲造先生の胸像をご寄付いただきました。国際友愛の精神は、本学の理念でもあり、学生教育に生かしつつ、永く後世に伝えてゆく所存です。なお別途、大学からは御礼のご挨拶に伺う予定となっております。

拓殖大学は建学以来、海外で活躍する数多くの優秀な人材を輩出して参りました。これからも積極進取の気概あふれる有為な青年の教育に傾注してゆく所存です。

みなさまには引き続き、拓殖大学へのご理解とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

以上